

2019年春季研修会 グループディスカッション ～グループ①まとめ～

【症例】

82歳男性 脳梗塞、狭心症 体重 60kg→57kg (6か月で3kg)

家族構成：妻、娘 4月 娘のみに軟菜食 きざみあんかけとろみで栄養相談実施

【グループディスカッションA】：症例に対して「どんな栄養指導をするか」

① どのような情報がほしいか

- ・咽頭癌治療後の状態
- ・STによる摂食機能の評価
- ・ADL
- ・家族の協力（家族の介護力、調理担当者は誰か、娘の仕事）
- ・以前の栄養指導内容。それが厳守できていたか。
- ・自宅での食事内容や食事摂取状況
- ・麻痺の有無
- ・認知機能
- ・要介護度。サービスの利用

② 指導内容

- ・現状の食事形態で食事をしなければならぬ経緯を患者様や家族に納得してもらえるよう説明する
- ・食事量と食事時間の目安を伝える。必要に応じて栄養補助食品の紹介も行う
- ・STに同席してもらい、口腔ケアや介助方法や食事のセッティング等を説明する
- ・実物の食事を見て、食べてもらう
- ・必要に応じてミキサー等の調理器具の購入を提案する

【グループディスカッションB】

「嚥下調整食の準備の指導の実際」

グループ①「コード2の調理指導」

○調理器具を買ってもらうか？買わない場合は？

- ・調理担当者が使いこなせるようであれば手軽に使用できるハンドミキサーの購入を勧める。
- ・難しいようであれば嚥下調整食の市販品の紹介や、すり鉢やおろしがね等を提案する

○調理器具の利用のポイントでどんな指導を行っているか？

- ・基本的に料理は蒸すや煮る等の調理方法で食材をやわらかく仕上げミキサーにかける
- ・ミキサーにかける時は食材に水分がないとかからないため、必要に応じて加水する。

○市販品購入についての指導の工夫

- ・食形態コードの見方や患者様に適したコードを説明する
- ・近くのドラッグストアの在庫状況の把握
- ・開封したら放置しない

○低栄養予防の工夫

- ・少量頻回食
- ・油脂の使用
- ・蛋白源の摂取
- ・3食食事を食べるように促す
- ・栄養補助食品の利用